**前期　期末考査　問題用紙**

問題１ 次の各問に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。 (思考・判断・表現)

問1　次の文章における空欄に適切な用語を解答用紙に記入しなさい。

　　　　(1) 経常的に仕損が発生する場合には，その正常仕損費を考慮に入れた原価標準を設定すべきであるが，その場合の原価標準の設定方法には，(ア)標準消費量を正常仕損率の分だけ増やす方法（第1法）と，仕損費を含まない単位あたりの正味標準製造原価に正常仕損費を別項目として加算する方法（第2法）がある。このうち，正確な原価計算や適切な原価管理に適しているのは(イ)である。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　①

　　　　(2) 異なる産地の原綿を混ぜて紡績する紡績業のように，何種類かの代替可能な原料を配合することで製品が製造される場合，価格の異なる原料間で生じる代替関係が製造原価に影響を及ぼすことになる。この影響を分析するために，原料消費数量差異を，さらに原料(ウ)差異と原料(エ)差異に分けて分析することができる。また，原料費と同様に直接労務費に関して作業時間差異を労働(オ)差異と労働(エ)差異に分けて分析することができる。

　　　　(3) 標準原価計算を採用すると(カ)に役立つ(キ)が入手でき，また直接原価計算を採用すると短期(ク)に役立つ(キ)が入手できる。

　　　問2　(1)の文章の下線①になる理由を解答用紙に記入しなさい。

　　　問3　(3)の文章にでてくる二つの原価計算を合わせた原価計算の名称を解答用紙に記入しなさい。

問題２ K社では，製品Ａを量産し，パーシャル・プランの全部標準総合原価計算をおこなっている。次の資料にもとづいて，第1 法（各原価要素別標準消費量を正常仕損率の分だけ増やす方法）により，標準原価差異を分析しなさい。なお，製造間接費の能率差異は，変動費能率差異と固定費能率差異を合計すること。(知識・技術)

〈資　料〉

1 ．製品Ａの原価標準

直接材料費 ：標準単価 1,200円×標準消費量3kg ＝ 3,600円

直接労務費 ：標準賃率 900円×標準直接作業時間4 時間＝ 3,600円

変動製造間接費：標準配賦率 200円×標準直接作業時間4 時間＝ 800円

固定製造間接費：標準配賦率 400円×標準直接作業時間4 時間＝ 1,600円

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合　　　計 9,600円

（注1 ）固定製造間接費の予算は7,200,000円（月額）であり，月間正常直接作業時間（基準操業度）は18,000時間である。

（注2 ）上記の原価標準には，仕損費は含まれていない。

2 ．正常仕損と異常仕損

　 製品Ａの生産には，工程の終点で正常仕損が発生する。正常仕損率は良品に対し5 ％であり，それを超えて発生した場合の仕損は異常仕損である。正常仕損費は異常仕損品に負担させないものとする。正常仕損品および異常仕損品には，売却価値はない。

3 ．当月の生産データ

月初仕掛品　　　　　　　　 　　600個（0.4）

当月投入　　　　　　　　　 　 4,400個

投入合計　　　　　　　　　 5,000個

差引：仕　損　品　200個

　　　 　　　　月末仕掛品　800個（0.8） 1,000個

完　成　品　　　　　　　　 　 4,000個

(注)直接材料は工程の始点で投入される。（　　）内は加工費の進捗度を示す。仕損はすべて工程の終点で発生した。

4 ．当月の実際総製造費用

直接材料費：1,180円×13,500㎏ ＝15,930,000円

直接労務費： 910円×18,500時間＝16,835,000円

製造間接費： 11,000,000円

　 合　　　計 43,765,000円

（注）製造間接費の内訳：変動製造間接費　3,650,000円　固定製造間接費　7,350,000円

解答はすべて解答用紙に記入すること

問題３　当社では，製品Ｘを量産し，パーシャル・プランの全部標準総合原価計算を採用している。製品Ｘは原料αおよびβを配合して製造され，その標準配合割合はα：β＝ 7： 3 と定められている。下記の資料にもとづいて，各問に答え解答用紙に記入しなさい。(知識・技術)

問1 　仕掛品－直接材料費勘定への記入をおこないなさい。

※ 1.勘定の記入は，(　)内に相手科目・金額の順で記入のこと｡

　2.不要な(　)には何も記入しないこと。

　3.勘定の締め切りは不要である。

問2 　価格差異・原料消費量差異を原料ごとに原料配合差異と原料歩留差異に分析しなさい。

〈資　料〉

1 ．製品Ｘ 8 ㎏を製造するのに必要な各原料の標準単価および標準消費量

原料α：標準単価700円×標準消費量 7㎏＝4,900円

原料β：標準単価400円×標準消費量 3㎏＝1,200円

合　計 10㎏ 6,100円

2 ．原料αおよびβの当月実績データ

原　料　　月初在庫量　　当月購入量　 　 月末在庫量

α　　　　 640㎏　　　 7,280㎏ 　　　　 700㎏

β 　　　　300㎏　　　 3,170㎏　　　　 340㎏

940㎏ 　　 10,450㎏ 　　　　1,040㎏

原料αの実際購入単価は720円/kg，原料βの実際購入単価は410円/kgである。

3 ．当月の製品Ｘの実際生産量は8,000㎏であった。

4 ．月初仕掛品および月末仕掛品はなかった。

問題４　当社では，製品Ｙを量産し，パーシャル・プランの全部標準総合原価計算を採用している。製品Ｂは原料α，βおよびγを配合して製造され，その標準配合割合はα：β：γ＝ 5 ： 3 ： 2 と定められている。次に示す当月の資料にもとづいて，賃率差異・作業時間差異を労働歩留差異と労働能率差異に分析しなさい。(知識・技術)

　　　　〈資　料〉

　　　　　1 ．製品Ｂ 8 ㎏を製造するのに必要な各原料の標準単価および標準消費量

原料α：標準単価450円×標準消費量 5㎏＝2,250円

原料β：標準単価350円×標準消費量 3㎏＝1,050円

原料γ：標準単価250円×標準消費量 2㎏＝ 500円

合　計　　　　　　　　　　　　　　10㎏ 3,800円

2 ．10㎏の原料を8㎏の製品Ｂに加工するのに必要な標準直接労務費

直接労務費：標準賃率1,600円×標準直接作業時間6 時間＝9,600円

3 ．各原料の当月実績データ

原　料　　実際消費量

α 　　　2,590㎏

β 　　　1,566㎏

γ 　　　1,044㎏

5,200㎏

4 ．直接労務費の当月実績データ

直接労務費：1,590円×3,200時間＝5,088,000円

5 ．当月の製品Ｂの実際生産量は 4,000㎏であった。

6 ．月初仕掛品および月末仕掛品はなかった。

解答はすべて解答用紙に記入すること

問題５　直接標準原価計算を採用している当社の次の資料にもとづいて，損益計算書を作成しなさい。(思考・判断・表現)

〈資　料〉

1.標準原価カード

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 標準原価カード（製品1 個あたり） | | | |
|  | 標準単価 | 標準消費数量 | 金額 |
| 直接材料費 | 400円 | 4kg | 1,600円 |
|  | 標準賃率 | 標準直接作業時間 |  |
| 直接労務費 | 2,000円 | 2時間 | 4,000円 |
|  | 標準配賦率 | 標準直接作業時間 |  |
| 変動製造間接費 | 760円 | 2時間 | 1,520円 |
|  | 製品1 個あたり標準変動製造原価 | | 7,120円 |
|  | 製品1 個あたり標準変動販売費 | | 400円 |

　　　　2 ．固定費予算

固定製造間接費：3,724,000円

固定販売費及び一般管理費：1,000,000円

3 ．当月投入量：2,400個

　　　　　　なお，材料はすべて工程の始点で投入している。また，月初仕掛品・月末仕掛品はないものとする。

4 ．当月販売量：2,300個

5 ．販売単価：10,000円

6 ．実際発生額

直接材料費：3.705,000円

　　　　　　　　　　　（実際単価380円，実際消費数量9,750kg）

直接労務費：10,122,000円

　　　　　　　　　　　（実際賃率2,100円，実際直接作業時間4,820時間）

変動製造間接費：3,759,600円（実際配賦率780円）

固定製造間接費：3,666,000円

変動販売費：910,800円

固定販売費及び一般管理費：1,200,000円

問題６　製品Ｘを製造・販売する全商製作所の下記の資料にもとづき固定費調整をおこない，①月末製品・月末仕掛品に含まれる固定費，②月初製品・月初仕掛品に含まれる固定費，③営業利益(全部標準原価計算)を計算し，解答用紙に記入しなさい。

　　　(知識・技術)

〈資　料〉

1.標準原価カード

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 標準原価カード（製品1 個あたり） | | | |
|  | 標準単価 | 標準消費数量 | 金額 |
| 直接材料費 | 270円 | 3kg | 810円 |
|  | 標準賃率 | 標準直接作業時間 |  |
| 直接労務費 | 970円 | 3時間 | 2,910円 |
|  | 標準配賦率 | 標準直接作業時間 |  |
| 変動製造間接費 | 70円 | 3時間 | 210円 |
| 固定製造間接費 | 100円 | 3時間 | 300円 |
|  | 製品1 個あたり標準製造原価 | | 4,230円 |

　　　　　※製造間接費の年間予算は変動製造間接費が7,840,000円，固定製造間接費が11,200,000円であり，年間の基準操業度を112,000時間としている。

2.当月の生産・販売データ

月初仕掛品 200個（1/2） 月初製品 300個

当月投入 4,000個 当月完成 3,900個

　 合計 4,200個　 合計　 4,200個

月末仕掛品 300個（1/3） 月末製品 400個

完成品 3,900個 当月販売 3,800個

　 ※直接材料はすべて工程の始点で投入し，（　　）内は加工進捗度をあらわしている。

3.営業利益(直接標準原価計算)は3,700,000円である。

解答はすべて解答用紙に記入すること